

栃木県現代俳句協会報

No. 173



第一七三号

発行所

〒三二七-〇三二五

佐野市吉水駅前一五八水口方

栃木県現代俳句協会

発行人

中井 洋子

編集人

松本 登子

令和六年三月一日発行

俳句仲間として

栃木県現代俳句協会

会長 中井 洋子



令和六年の幕開け、お喜び申し上げます。
本年もよろしくお願いたします。

また、元日、能登半島の大地震で被災された方々に早く日常の戻ることを

お祈りいたします。

昨年度はコロナウイルスも緩やかに
り、各事業をほぼ実施することができ
ましたが、計画を断念した恒例の一泊
吟行会は、本年度も見送ることになり
ました。娯楽性をそなえた事業だけに
残念に思いますが、その分、各支部が
句会を中心とした独自の企画などで、
魅力ある活動をして頂きたいと願って
おります。

また、新入会員も、ここ二、三年で
は現会員に比して若年の方が目立ち、
新しい風をもって「俳句仲間」として
共に切磋琢磨し、協会の諸々の活性の
力になることを期待しております。

本年度もお一人おひとりがより豊か
に過ごされるようお祈り申し上げます。



令和六年度総会決定事項について

事務局長 水口 圭子

令和六年度総会は、一月十四日、栃木市サンプラザに於いて開催され、左記の内容を満場一致で決定し、無事終了致しました。ここに決定事項をご報告致します。

記

一、報告

- (一) 令和五年度事業報告
- (二) 令和五年度会計報告
- (三) 令和五年度監査報告

二、議事

- (一) 令和六年度事業計画
- ① 総会及び新春俳句会並びに賀詞交歓会

一月十四日(日)栃木市サンプラザ

- ② 第六十九回俳句研究会 (県南支部担当)

・日時 四月九日(火)午後一時

・会場 小山市生涯学習センター

第一セミナー室

・内容 吟行会

- ③ 第七十回俳句研究会 (栃木支部担当)

・日時 九月十八日(水)午後一時

・会場 栃木市民交流センター

(旧蔵の街楽習館)

・講話 「栃木県現代俳句協会の裏話」

・講師 和田 浩一

- ④ 第十九回通信句会 (六月～八月)

・全会員を対象とする

・第七十回俳句研究会にて表彰

- ⑤ 第三十二回現代俳句色紙展

・十一月十六日(土)～十一月十七日(日)

・会場 とちぎ岩下の新生姜ホール

大会議室 (栃木文化会館)

特別コーナー 未定

- ⑥ 支部句会の推進

・県南支部「昂句会」

毎月第二月曜日

小山市生涯学習センター

・県西支部「三靄句会」

毎月第二木曜日

佐野市城山記念館

・宇都宮支部「亀の会」

毎月第三土曜日

宇都宮市中央生涯学習センター

・栃木支部「山麓俳句会」

隔月第三水曜日

栃木市民交流センター

(旧蔵の街楽習館)

・上都賀支部「きさら句会」

毎月第一日曜日

日光市南原コミュニティセンター

- ⑦ 会報の発行 年四回

(一七三号～一七六号)

- ⑧ 会員の現況報告

会員八十一名 賛助会員四名

- ⑨ 栃木県現代俳句協会

第二十期後期役員構成の一部変更

新任 会計長 北島洋子

総務部長 橋本尚子

参与 大竹照子

三、その他

・関東甲信越

静ブロック

会議

詳細未定



新春俳句会作品集

◆特選賞

和田 浩一 選

街宣車の前を小走り年の暮

橋本尚子

中井 洋子 選

処方箋は月の渚を歩くこと

水口圭子

石倉 夏生 選

搾りだすまっかな絵の具開戦日

和田浩一

速水 峰邨 選

余命知らざり冬霧に灯がひとつ

和田浩一

須藤火珠男 選

荒星や宙ぶらりんの我をりぬ

斎藤絢子

中村 克子 選

リレーの子ピカソの顔で走り抜け

白井正枝

大竹 照子 選

鯛焼きの寂しい尾から食べ始む

山野井朝香

水口 圭子 選

石鹼泡きそふと出来てクリスマス

中井洋子

◆最高点句

搾りだすまっかな絵の具開戦日

和田浩一

酒を呑む胃力メラも飲む十二月

石倉夏生

◆その他の作品（順不同）

踏みにゆく少年の日の霜柱

速水峰邨

ひとり居のクリスマススイブ鴨南蛮

須藤火珠男

寒椿ことばの奥にある驛り

中村克子

昭和歌謡熱くてさみし年の暮

大竹照子

きっかけは梨の見分けを問うたこと

北島洋子

通るたび微かな呼吸ふゆぎくら

戸田富美子

柴又の小さき恋はちゃんちゃんこ

本間睦美

白湯買つて浅草橋の夕しぐれ

和田璋子

七の段止まる机に冬りんご

中村亜希子

難病の友は朗らか寒牡丹

中田陽子

柚子風呂や土踏まずより解れくる

石川和子

大根に隠し包丁雨あがる

佐々木輝美

過ぎてゆく月日のなかを銀杏散る

鯉沼桂子

夢淡し双六人生試着する

神山姫余

身を置ががわれの体操冬景色

中村國司

諸家近詠

橘川 芳子

タッチして通る改札麦の秋

身に余るお褒めの言葉白牡丹

額にサンガラス月山八合目

天神脇菓子舗「老松」麻暖簾

音消して去る明易の救急車

石倉 夏生

春眠の奥へ躰を置いて来し

梅白し無菌の風を深く吸ふ

死者生者睦む晩夏の無言館

微酔して夜の愁思に深入りす

寒林の隙間に狙撃手の気配

佐々木輝美

夜の炬燵二人で居りて独り言

長生きを罪の如くに齋粥

春泥に轍の深く乳母車

花びらを載せるてのひら生命線

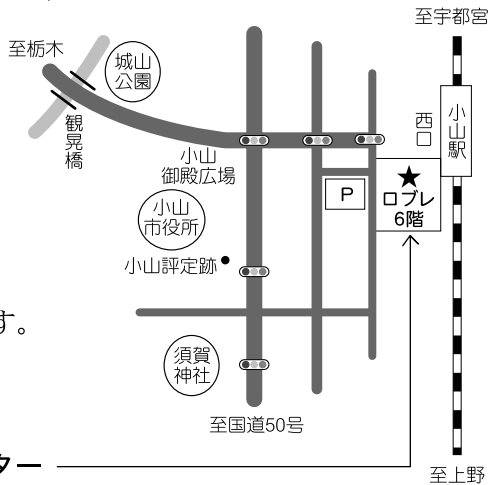
桜どき二胡の調べを背で聴けり

第69回俳句研究会のご案内

- ☆期 日 令和6年4月9日(火)
- ☆会 場 小山市立生涯学習センター
- ☆吟 行 地 小山市役所周辺、須賀神社、城山公園
- ☆投句締切 13時 囑目3句
(投句と同時に受付、昼食は予め済ませて下さい)
- ☆句 会 13時30分～16時
- ☆会 費 500円

- ・ 県南支部 小杉栄美子
TEL0285-27-3817
- ・ 第一事業部 鯉沼 桂子
TEL0282-43-0374

※感染症対策を各自
よろしくお願いたします。



★小山市立生涯学習センター
〒323-0023
小山市中央町3-7-1 ロブレ6階 TEL0285-22-9111

◆お知らせ

「栃木県芸術名鑑」

登載について

会長 中井 洋子

栃木県文化協会より表題の件について登載者推薦の依頼がありました(作成は令和八年予定)。他の俳句団体と協議し当協会も全会員を推薦することになり、会員名簿を文化協会へ提出することにしました。ご了承のほどお願いいたします。後日、文化協会が個別に直接確認の連絡をするとのことですので、可否は最終的に各位の対応となります。

尚、個人情報などで不都合のある方は、三月末迄にご連絡ください。事前に対応します。

よろしくお願いたします。

※次号174号の原稿締切りは
4月23日です。